

2023年3月期 第2四半期決算説明会



スズキ株式会社
2022.11.8

BASE
Spacia

第2四半期実績

…増収増益

※ 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

(億円)	当第2四半期 ('22/4-'22/9)	前年同期 ('21/4-'21/9)	増 減		補足
				増減率	
売上高	22,175	16,736	+ 5,439	+ 32.5%	2期連続増収、過去最高
営業利益 (利益率)	1,643 (7.4%)	991 (5.9%)	+ 652	+ 65.8%	2期連続増益
経常利益 (利益率)	1,923 (8.7%)	1,482 (8.9%)	+ 441	+ 29.7%	2期連続増益
四半期純利益 [※] (利益率)	1,151 (5.2%)	1,005 (6.0%)	+ 146	+ 14.5%	2期連続増益

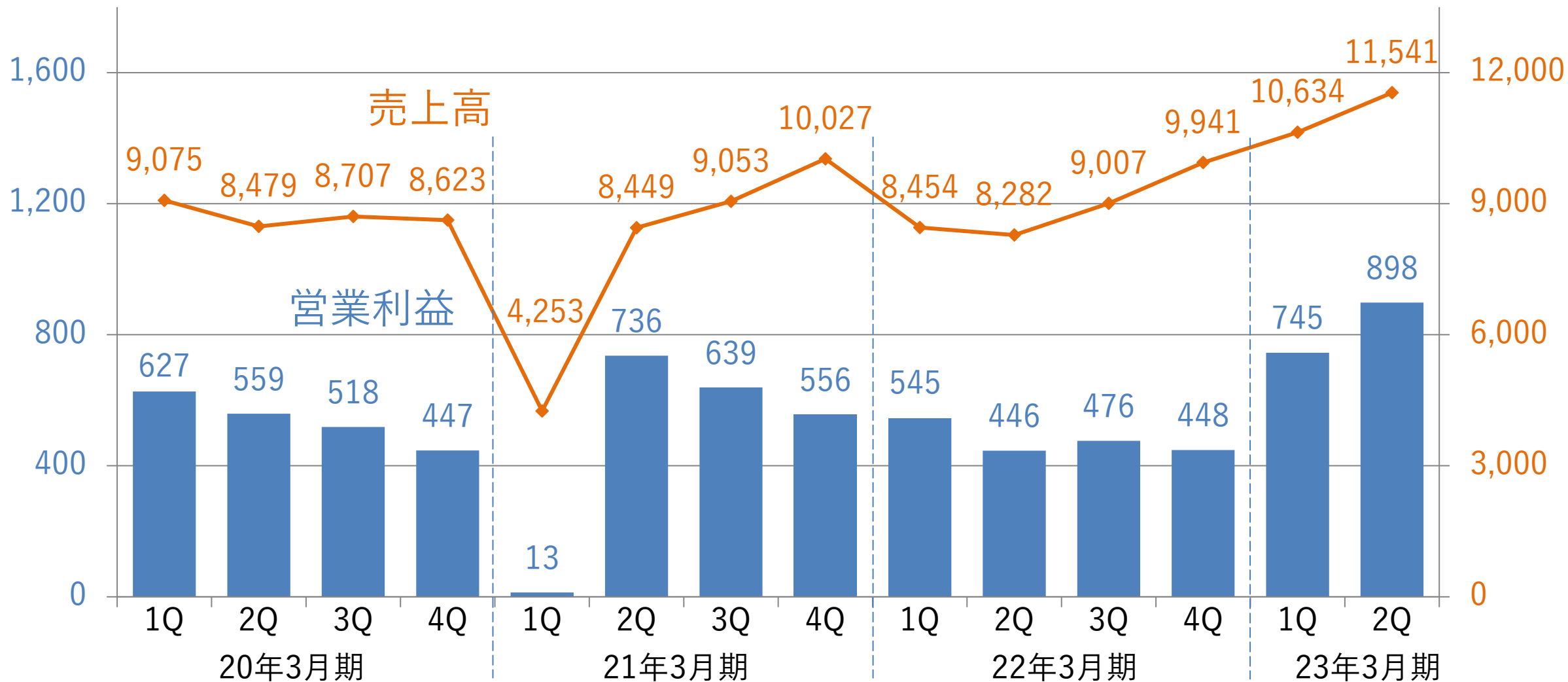
- ・ 売上高増加 … 売上構成変化等の改善、インド等での販売増加、為替円安効果等により増収
- ・ 営業利益増益 … 原材料価格高騰の影響を増収効果等によりカバー
- ・ 四半期純利益増益… 営業利益増益により営業外損益と特別損益(前年同期は旧豊川工場跡地売却益計上)の減益を吸収

世界 販売	四輪車	1,463千台	1,255千台	+ 208千台	+ 16.6%	インド、アフリカ、日本等で増加
	二輪車	960千台	781千台	+ 179千台	+ 22.9%	インド、アセアン、中南米等で増加

配当	一株当たり 中間配当金	50円	45円	+ 5円		2期連続増配 中間配当としては過去最高
----	----------------	-----	-----	------	--	------------------------

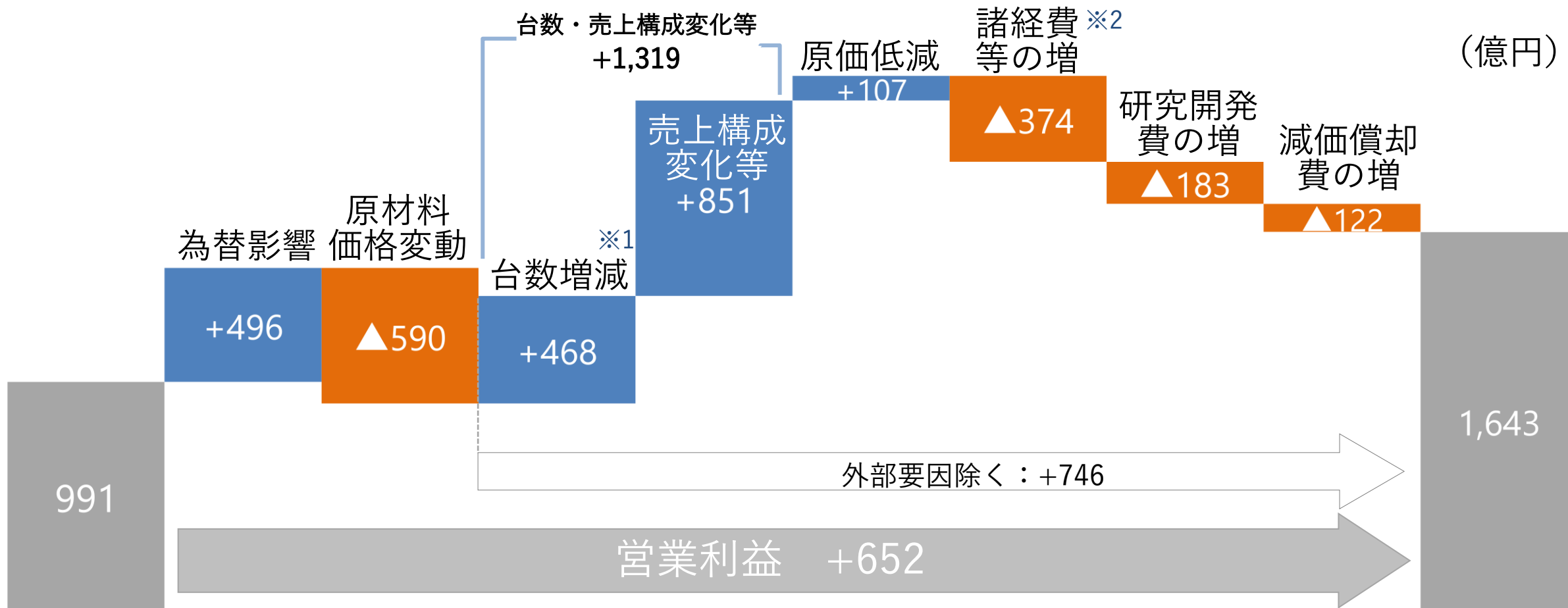
(営業利益・億円)

(売上高・億円)



(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合計			内、為替 換算影響
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	
国内計	5,395	5,009	+385	132	116	+16	19	17	+2	57	61	▲4	5,602	5,203	+399	
自 社	4,965	4,629	+336	132	116	+16	19	17	+2	57	61	▲4	5,172	4,823	+349	
O E M	430	380	+49										430	380	+49	
海外計	14,276	9,977	+4,300	1,627	1,074	+554	669	482	+187				16,573	11,533	+5,041	
欧 州	1,683	2,040	▲356	207	160	+48	132	119	+13				2,023	2,319	▲296	+111
北 米	3	2	+2	265	128	+136	387	242	+145				655	372	+283	+116
アジア	10,087	6,327	+3,760	855	569	+286	52	60	▲8				10,994	6,956	+4,038	+1,344
インド	8,227	4,767	+3,460	445	280	+165	4	4	▲0				8,676	5,051	+3,625	+1,166
〃以外	1,860	1,560	+300	410	289	+121	48	56	▲8				2,318	1,905	+413	+178
その他	2,503	1,608	+895	300	217	+83	99	61	+37				2,902	1,886	+1,015	+286
総合計	19,671	14,986	+4,685	1,759	1,190	+570	688	499	+189	57	61	▲4	22,175	16,736	+5,439	+1,857
内、為替換算影響			+1,581			+190			+86							+1,857

注. 当期…2022年4月～2022年9月期、前期…2021年4月～2021年9月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等



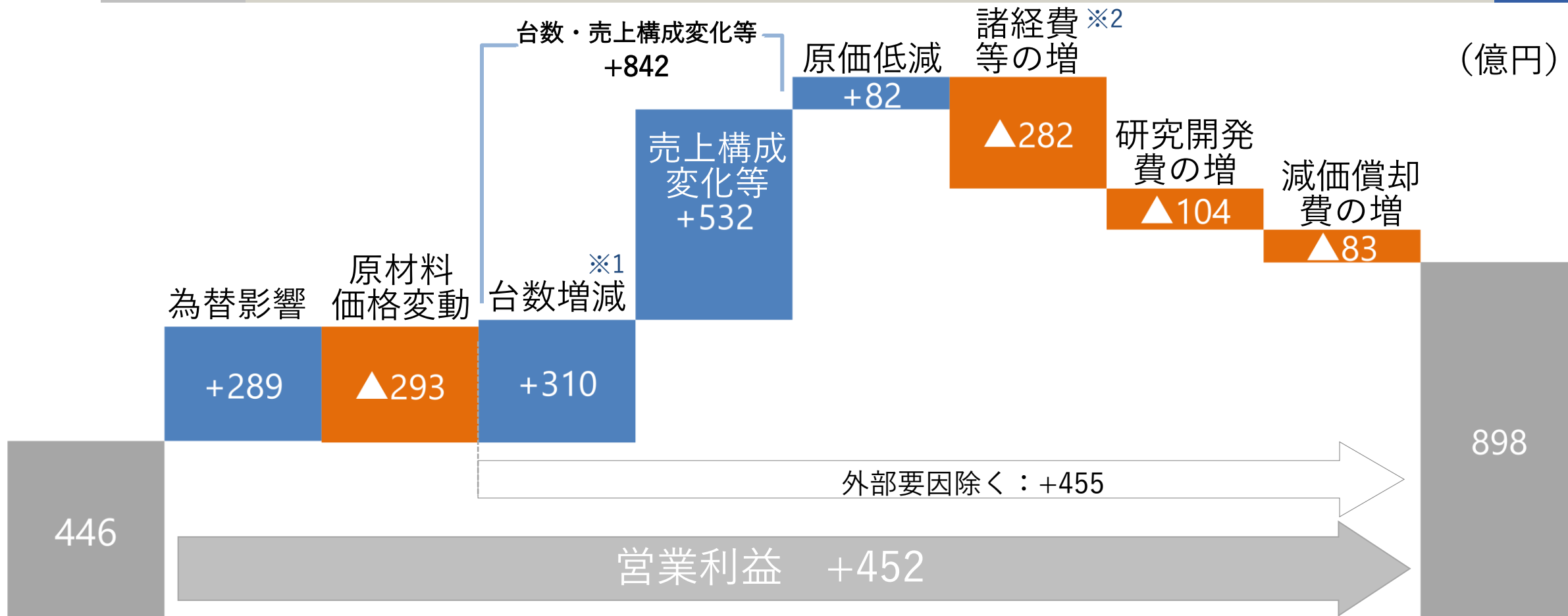
前年同期
営業利益
'21/4-9

※1 台数増減による影響 内訳
 ・当社単独 + 237億円
 ・子会社 + 231億円
 (内マルチ + 135億円)

※2 諸経費等の増 内訳
 ・発送費 ▲239億円
 ・営業政策費 ▲50億円
 ・労務費 ▲28億円 など

当第2四半期
営業利益
'22/4-9

注. 従来の売上・構成変化等を台数増減と売上構成変化等に分解。それに伴い、項目名を台数・売上構成変化等へ変更



前年同期
営業利益
'21/7-9

※1 台数増減による影響 内訳
 ・当社単独 + 185億円
 ・子会社 + 125億円
 (内マルチ + 48億円)

※2 諸経費等の増 内訳
 ・発送費 ▲133億円
 ・品質関連費用 ▲90億円
 ・営業政策費 ▲14億円 など

当第2四半期
営業利益
'22/7-9

注. 従来の売上・構成変化等を台数増減と売上構成変化等に分解。それに伴い、項目名を台数・売上構成変化等へ変更

	当第2四半期 ('22/4-'22/9)	前年同期 ('21/4-'21/9)	増 減	営業利益 為替影響
インドルピー	1.72円	1.49円	+ 0.23円	+ 155億円
米ドル	134円	110円	+ 24円	+ 119億円
メキシコペソ	6.66円	5.49円	+ 1.17円	+ 63億円
ユーロ	139円	131円	+ 8円	+ 53億円
オーストラリアドル	94円	83円	+ 11円	+ 28億円
南アフリカランド	8.23円	7.65円	+ 0.58円	+ 23億円
インドネシアルピア※1	0.91円	0.77円	+ 0.14円	+ 20億円
ポンド	163円	152円	+ 11円	+ 13億円
パキスタンルピー	0.65円	0.69円	▲0.04円	▲15億円
その他※2	—	—	—	+ 37億円
計				+ 496億円

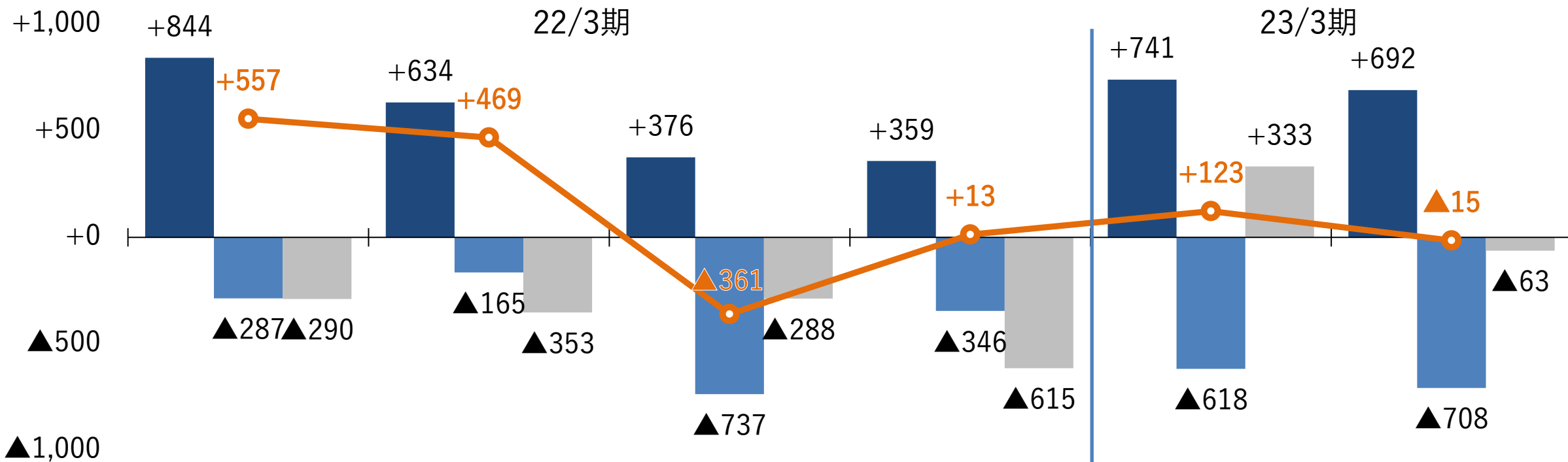
※1 インドネシアルピアは100ルピア当たりのレート ※2 その他…ベトナムドン +8億円 他

	当第2四半期 ('22/4-'22/9)	前年同期 ('21/4-'21/9)	増 減
(当社単独)	329億円	254億円	+ 75億円
(子会社)	988億円	578億円	+ 410億円
設備投資	1,317億円	832億円	+ 485億円
減価償却費	781億円	659億円	+ 122億円
研究開発費	954億円	771億円	+ 183億円

	当第2四半期末 ('22/9末)	前年同期		前期末	
		('21/9末)	増 減	('22/3末)	増 減
有利子負債残高	7,441億円	7,374億円	+ 67億円	6,742億円	+ 699億円
連結子会社数	119社	120社	▲1社	119社	±0社
持分法適用関連会社数	32社	31社	+ 1社	32社	±0社
従業員数	70,746人	70,008人	+ 738人	69,193人	+ 1,553人

(億円)

■ 営業活動C/F ■ 投資活動C/F ■ 財務活動C/F ○ フリーC/F



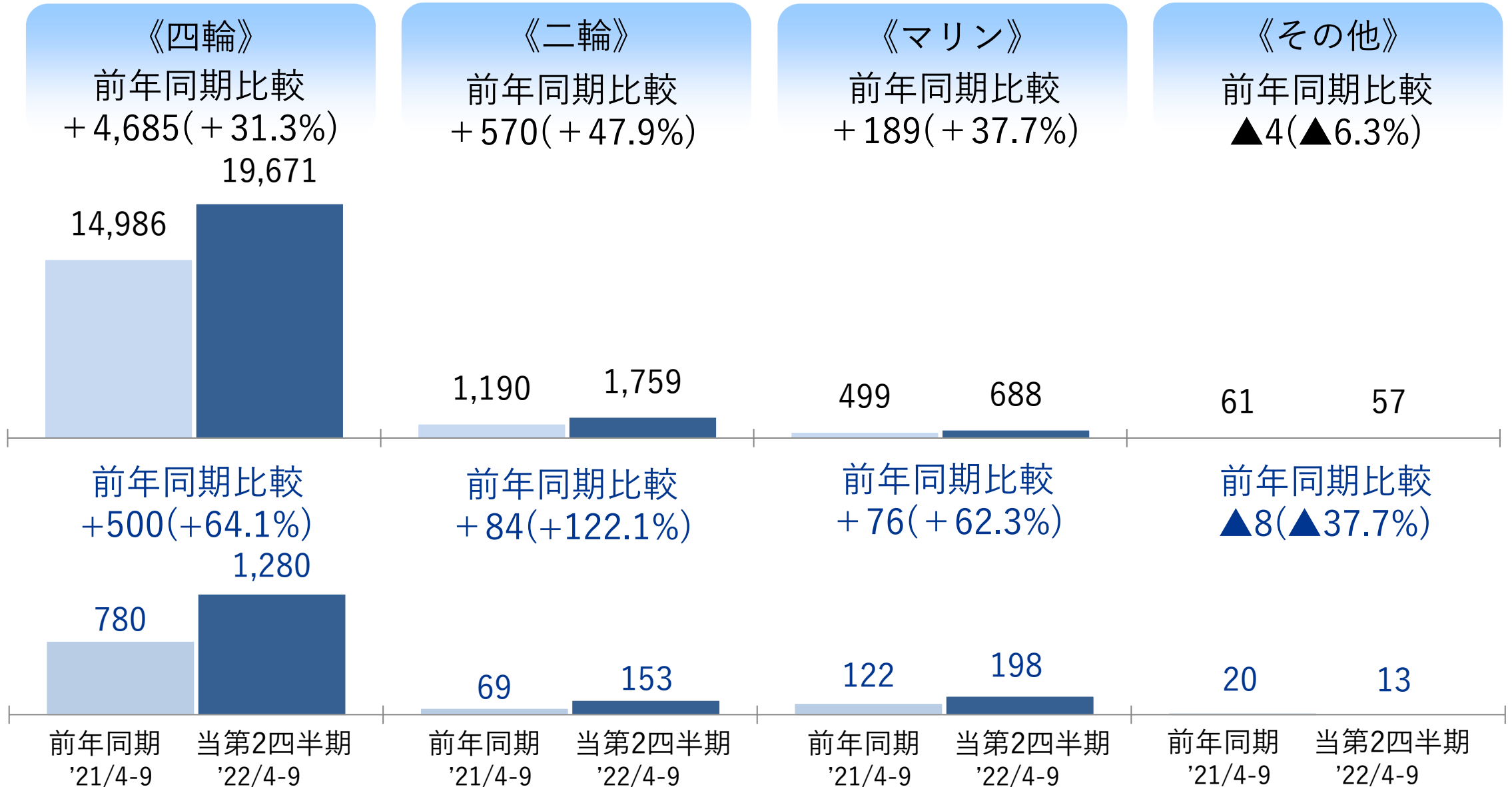
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
営業C/F	+844	+634	+376	+359	+741	+692
投資C/F	▲287	▲165	▲737	▲346	▲618	▲708
フリーC/F	+557	+469	▲361	+13	+123	▲15
財務C/F	▲290	▲353	▲288	▲615	+333	▲63
(内、配当金支払額*)	(▲257)	(▲88)	(▲220)	(▲1)	(▲225)	(▲136)
キャッシュ残高	9,499	9,587	8,997	8,580	9,215	9,171

※非支配株主への配当金の支払額を含む。

(億円)

売上高

営業利益



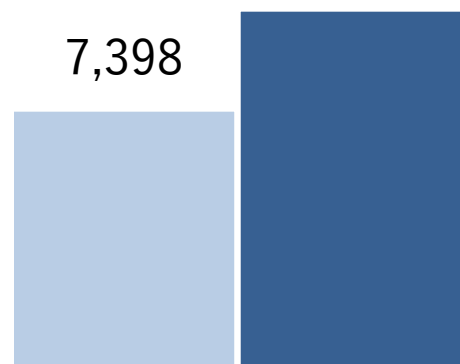
(億円)

売上高

《四輪》

前年同期比較
+ 2,872(+ 38.8%)
10,271

7,398



《二輪》

前年同期比較
+ 282(+ 45.8%)

615

896



《マリン》

前年同期比較
+ 106(+ 44.1%)

239

345



《その他》

前年同期比較
▲0(▲1.5%)

30

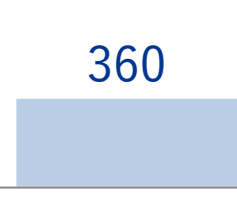
29



営業利益

前年同期比較
+357(+98.9%)

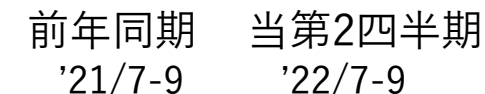
717



前年同期比較
+ 45(+185.4%)

25

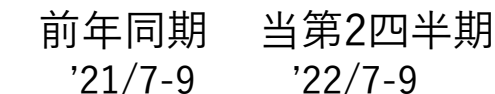
70



前年同期比較
+ 51(+ 94.2%)

54

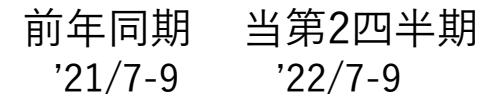
105



前年同期比較
▲1(▲14.0%)

7

6



前年同期 '21/7-9 当第2四半期 '22/7-9

前年同期 '21/7-9 当第2四半期 '22/7-9

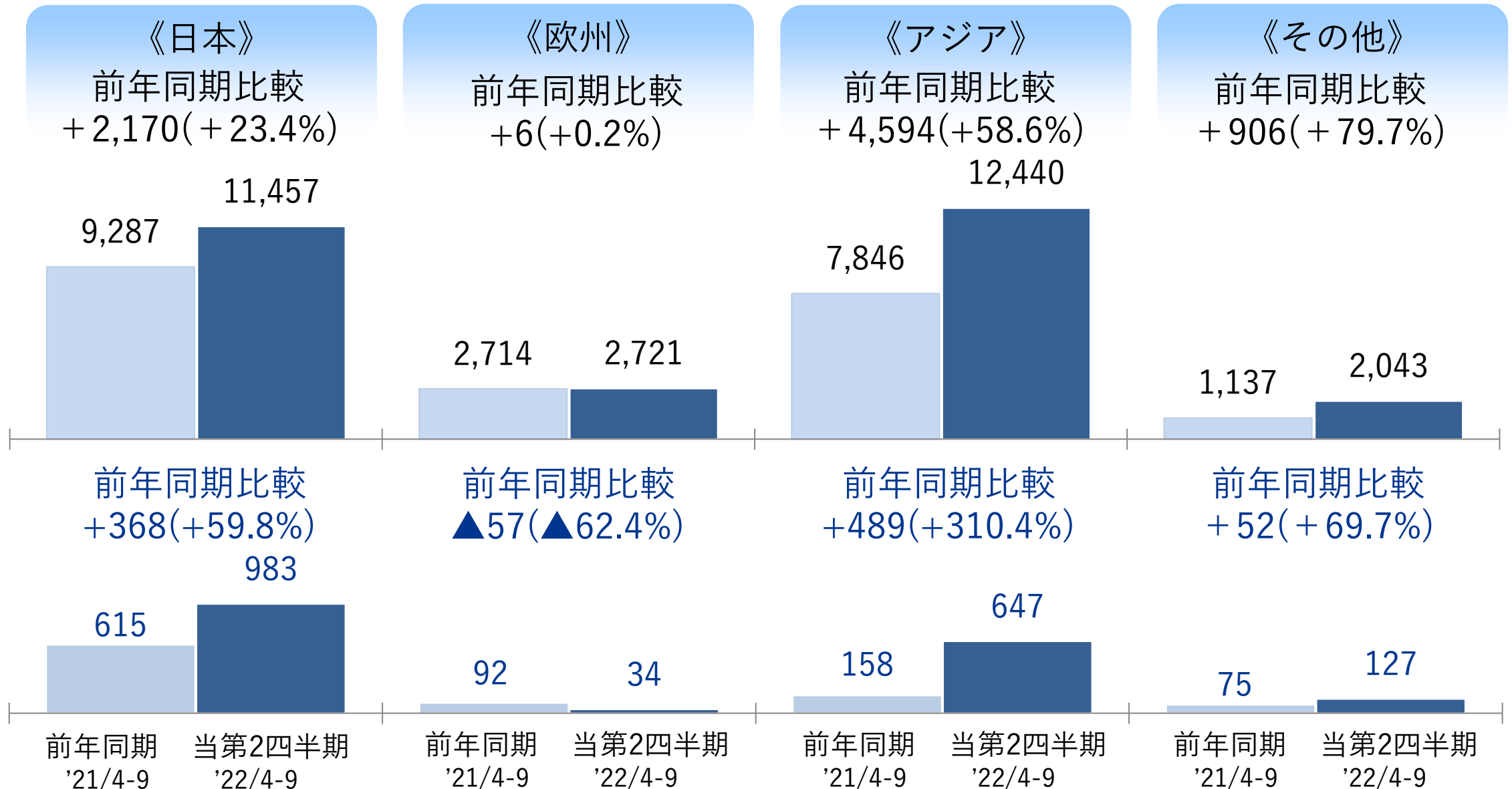
前年同期 '21/7-9 当第2四半期 '22/7-9

前年同期 '21/7-9 当第2四半期 '22/7-9

(億円)

売上高

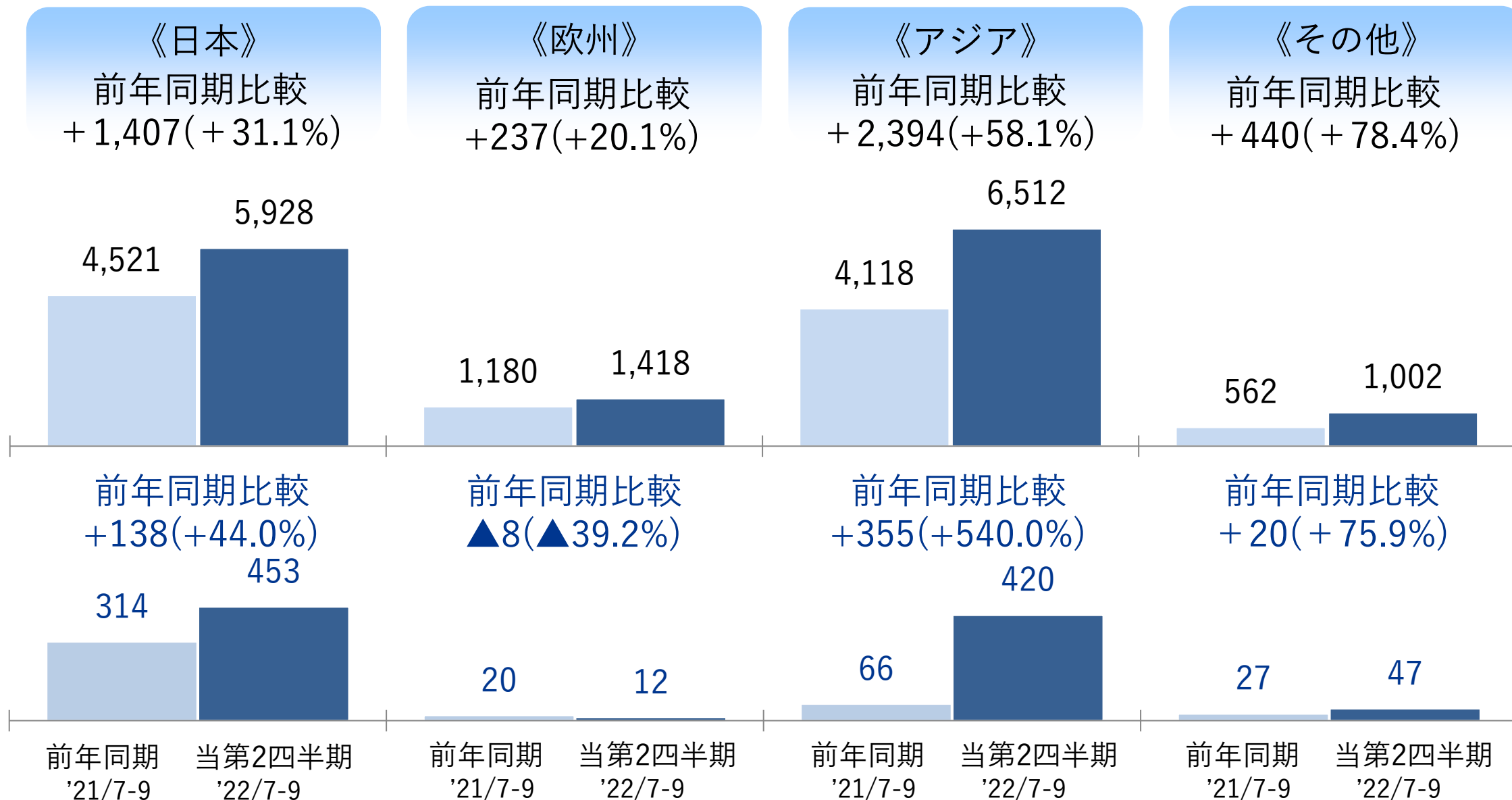
営業利益



(億円)

売上高

営業利益



		ルピー建 (億ルピー) ※1			円換算額 (億円)		
		当第2四半期	前年同期	増減	当第2四半期	前年同期	増減
連 結 業 績	売上高	5,383	3,610	+ 1,773	9,260	5,379	+ 3,881
	営業利益※2 (利益率)	331 (6.1%)	18 (0.5%)	+ 313	569 (6.1%)	26 (0.5%)	+ 543
	税前利益 (利益率)	403 (7.5%)	121 (3.3%)	+ 282	692 (7.5%)	180 (3.3%)	+ 512
	四半期純利益 (利益率)	315 (5.8%)	96 (2.7%)	+ 219	542 (5.8%)	143 (2.7%)	+ 399
	為替レート	1.72円	1.49円	+ 0.23円			
	卸 販 売	国内販売※3	853千台	628千台	+ 224千台		
輸出※3		133千台	105千台	+ 28千台			
合計		985千台	733千台	+ 252千台			

※1. ルピー建は、10月28日付でマルチ・スズキ・インディア社が発表した連結業績値

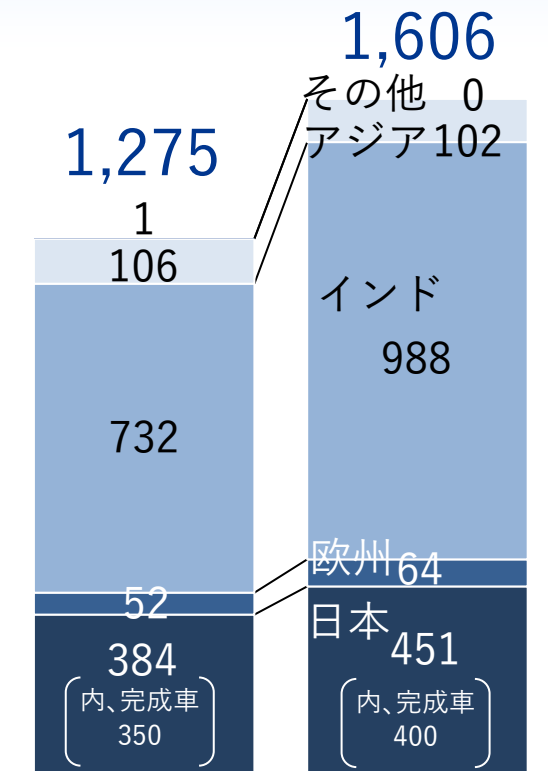
※2. 営業利益は次式により算出
Sales of product
+ Other operating revenues
- Total Expenses
+ Finance costs

※3. 国内販売および輸出はOEMを含む

注. マルチ・スズキ・インディア社はInd AS (インド版IFRS) に基づき会計処理をしており、本数値はあくまでも参考値

《生産実績》

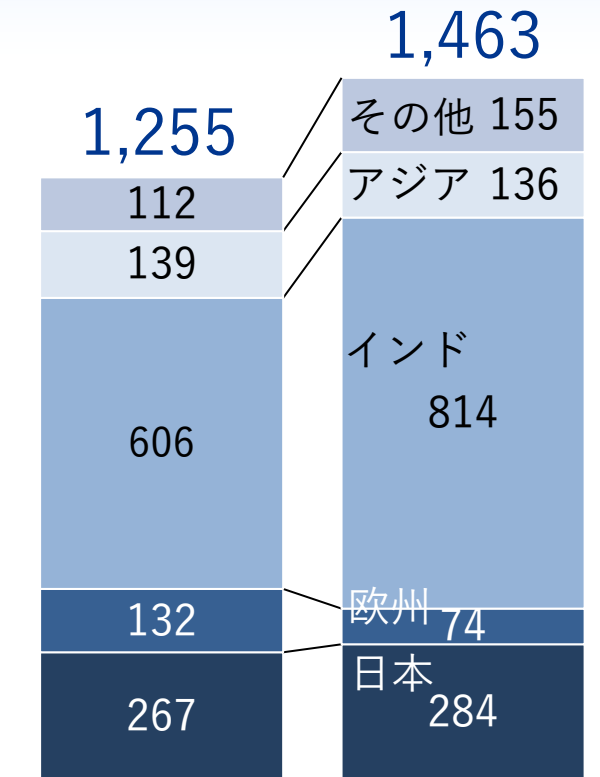
+331千台 (+25.9%)
(千台)



前年同期 '21/4-9 当第2四半期 '22/4-9

《販売実績》

+208千台 (+16.6%)
(千台)



前年同期 '21/4-9 当第2四半期 '22/4-9

● 当期の世界販売

・世界販売 1,463千台 (前年同期比+ 16.6%)

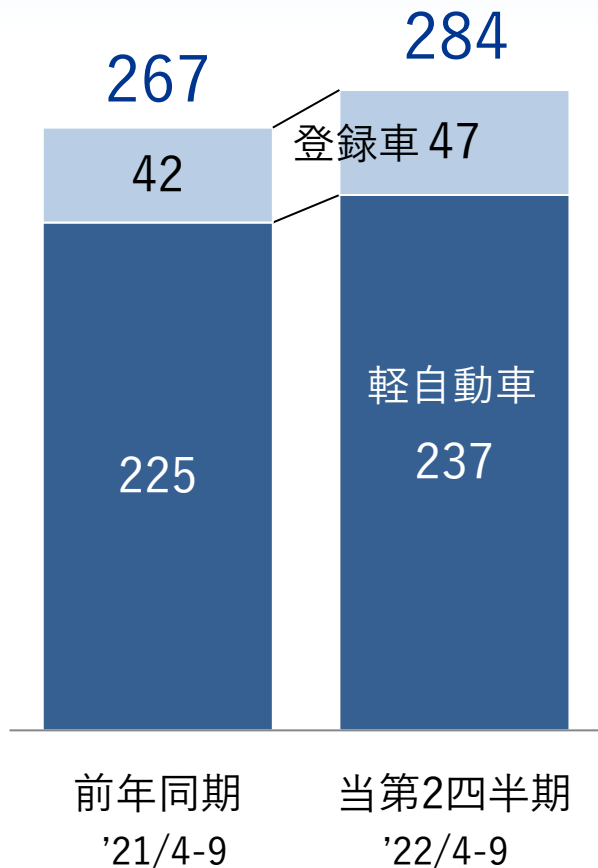
(世界販売の内訳)

インド	814千台	(〃)	+ 34.4%
日本	284千台	(〃)	+ 6.1%
欧州	74千台	(〃)	▲ 43.5%
アジア(除インド)	136千台	(〃)	▲ 1.6%
その他	155千台	(〃)	+ 38.4%

(インドを除くアジアの内訳)

パキスタン	58千台	(〃)	▲ 4.9%
インドネシア	42千台	(〃)	▲ 4.5%
タイ	10千台	(〃)	+ 1.1%
その他	27千台	(〃)	+ 10.6%

《第2四半期比較》
+16千台 (+6.1%)
(千台)



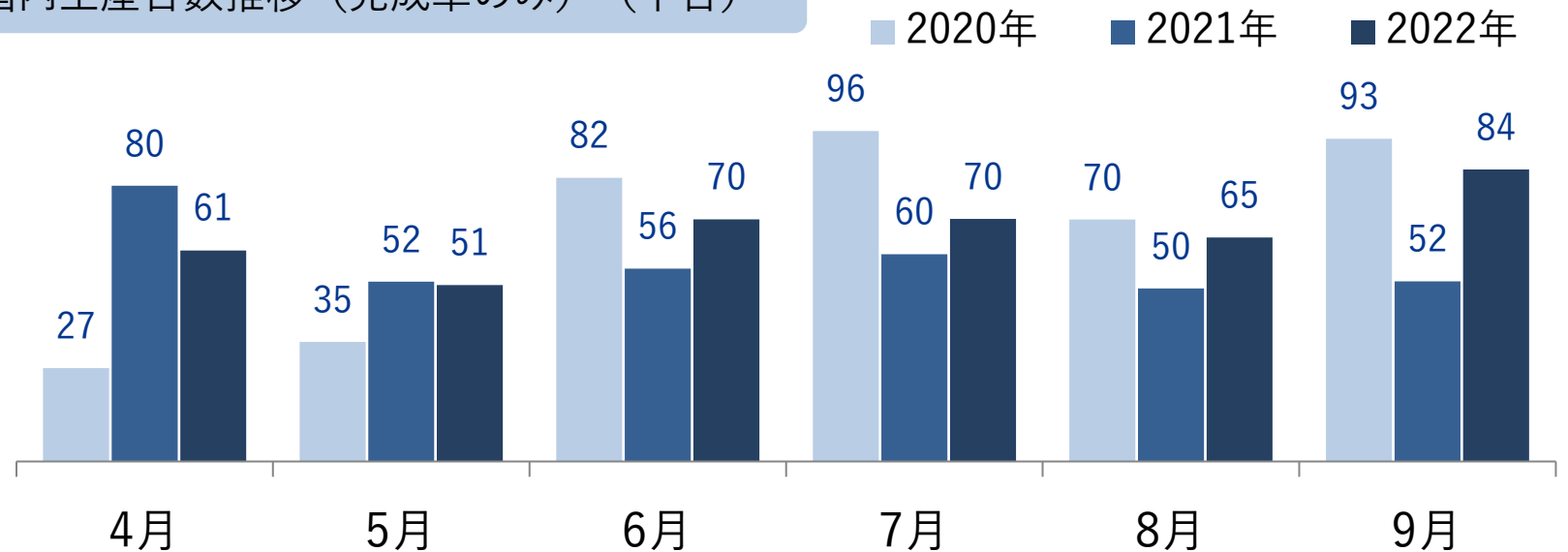
● 当期の日本販売

- ・ 半導体を含む部品供給不足の影響が前年同期よりも減少→前年同期比+6.1%

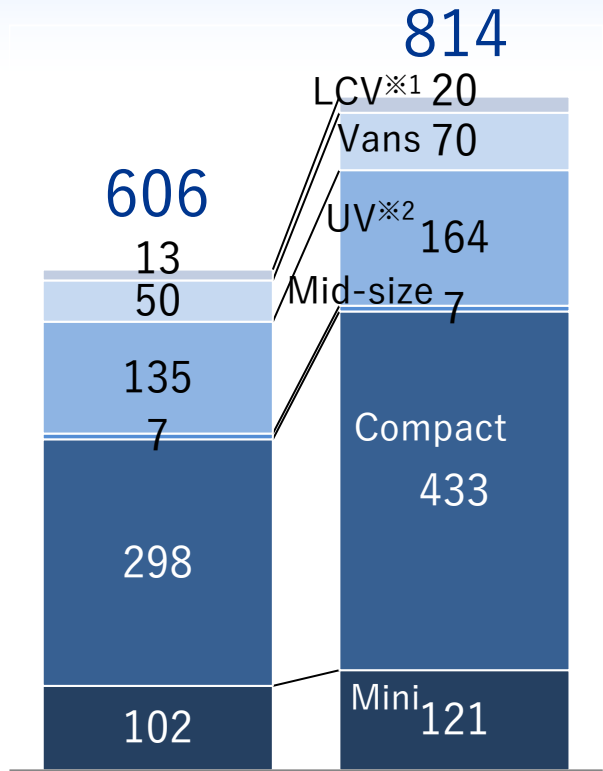
● 当期の国内工場の稼働状況

- ・ 国内工場では昨年5月以降、部品供給不足による工場の生産停止が継続
- ・ 徐々に上向き、当期の国内完成車生産は400千台→前年同期比+14.6%

国内生産台数推移 (完成車のみ) (千台)



《第2四半期比較》
+ 208千台 (+34.4%)
(千台)



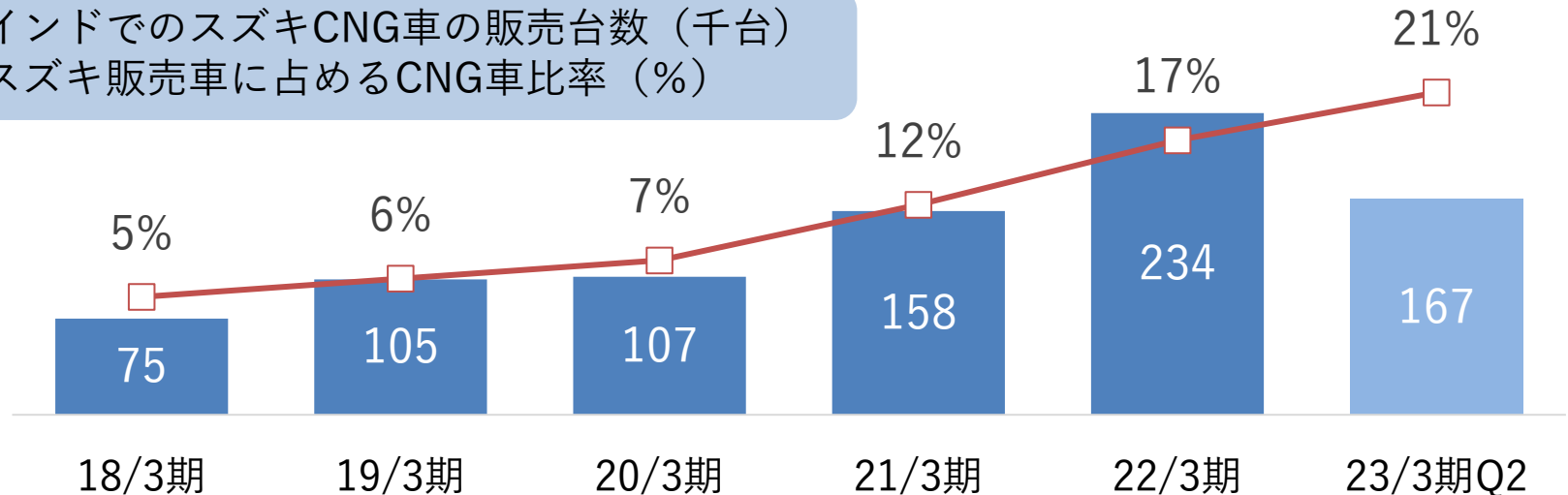
● 当期のインド販売

- ・ 前年同期
- ・ ロックダウンによる販売店の稼働制約
- ・ 半導体を含む部品供給不足による生産減の影響
- ・ 当期
- ・ 新型「ブレッツァ」、新型SUV「グランドビターラ」の投入などUV※2セグメントが伸長→前年同期比+34.4%

● インドでのCNG車の展開

- ・ 当期のスズキ販売車に占めるCNG車比率は21%
- ・ そのうち、CNG設定車に占めるCNG車比率は30%

インドでのスズキCNG車の販売台数 (千台)
スズキ販売車に占めるCNG車比率 (%)



注. 左側グラフは商用車含む卸販売実績、OEMを除く ※1 LCV=Light Commercial Vehicles ※2 UV =Utilities Vehicles

● インドのカーボンニュートラル及び循環型社会形成に貢献

- ・ 8月31日、インド政府関係機関のNational Dairy Development Board（全国酪農開発機構、以下NDDB）とバイオガス実証事業を実施することで合意、覚書を締結したことを発表
- ・ 合併会社設立も視野に、将来のバイオガス事業化、普及可能性を実証



（バイオガス事業の概要）

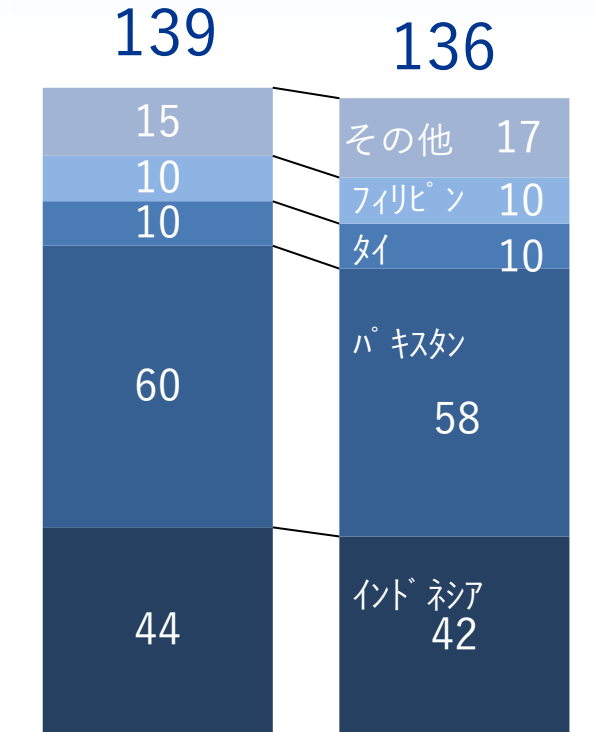
<全体像>



<効果>

- ・ 牧草由来の牛糞のメタンからバイオガスを人為的に発生、自動車用燃料を精製し利用することで、CO₂の28倍の温室効果を持つメタンの大気放出を抑制
- ・ 大気中のCO₂を原料としたカーボンニュートラル燃料
- ・ バイオガス発生後の残渣は有機肥料として利用でき、インド政府の有機肥料促進政策に貢献
- ・ 農村地域活性化、新たな雇用創出、廃棄物資源化、エネルギー自給率向上、循環型社会形成などにも貢献

《第2四半期比較》
 ▲2千台（▲1.6%）
 （千台）



前年同期
'21/4-9

当第2四半期
'22/4-9

● 当期の販売

<インドネシア>

- ・自動車奢侈税の減免措置終了等による反動で国内販売台数は前年比▲4.5%
- ・6月「エルティガ ハイブリッド」発売、アセアン・中南米諸国中心に輸出も開始
- ・今後はエルティガ、XL7を拡販

<パキスタン>

- ・7月以降、中央銀行の外貨送金規制により、KDの通関が出来ず車両供給不足となり4-9月の販売台数は前年比▲4.9%

<タイ>

- ・販売台数は前年並み、スイフトの特別仕様車やXL7などを軸に拡販

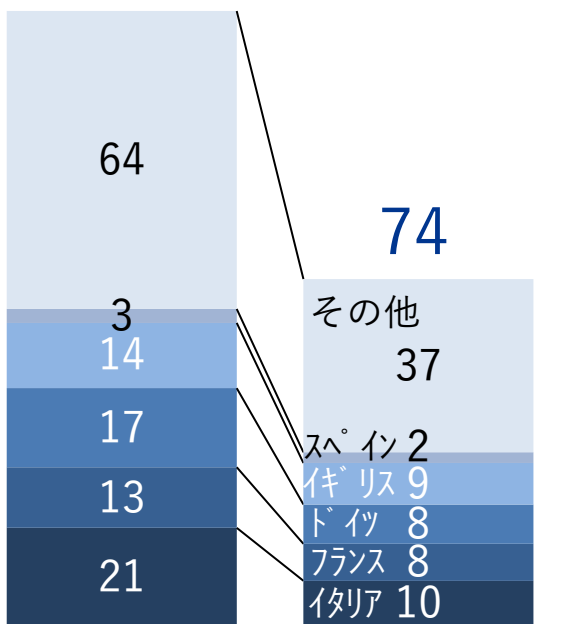
<フィリピン>

- ・エルティガやXL7等の好調により、前年同等の販売台数を維持



《第2四半期比較》
 ▲57千台 (▲43.5%)
 (千台)

132



前年同期
'21/4-9

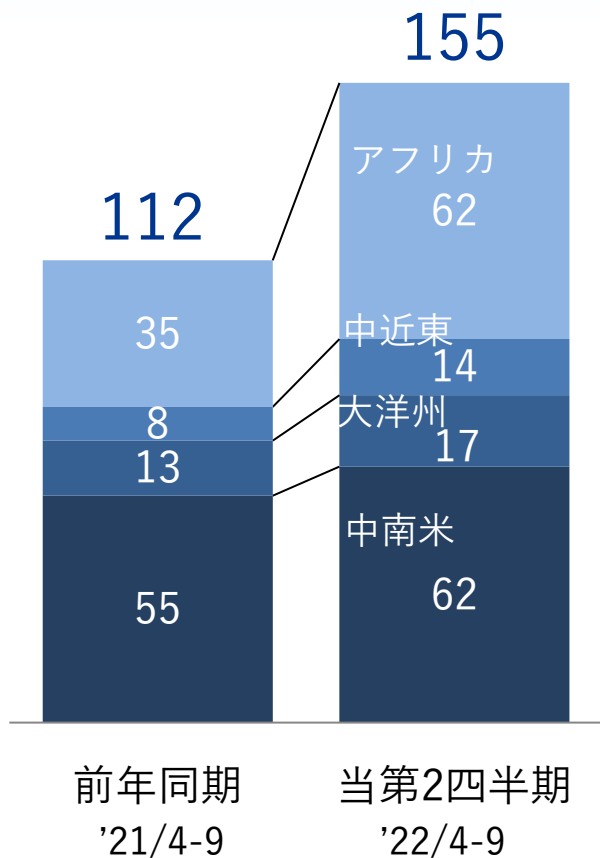
当第2四半期
'22/4-9

● 当期の欧州販売

- ・ 製品の供給不足により、当期販売は74千台、前年同期比▲43.5%
- ・ 半導体調達状況は改善傾向
但し、マジャールでは人員不足による減産影響が発生
- ・ 10月より、VITARAに続き、S-CROSSにもスズキ独自のストロングハイブリッドシステム搭載車を設定



《第2四半期比較》
 +43千台 (+38.4%)
 (千台)



● 当期の販売

< アフリカ >

・ アフリカ全体販売台数62千台、前年同期比 +74.7%

・ 南アフリカ	26千台	(前年同期比 + 93.3%)	シェア5.8%→10.1%
・ エジプト	10千台	(// ▲ 4.2%)	
・ エチオピア	8千台	(// + 156.2%)	
・ コートジボワール	5千台	(// + 103.0%)	
・ アンゴラ	4千台	(// + 128.9%)	
・ その他	10千台	(// + 105.1%)	

< 中近東 >

・ サウジアラビアを中心に中近東全体では
 前年同期比 +66.6%

< 大洋州 >

・ 大洋州全体販売台数17千台、同 +29.9%
 ・ 内、オーストラリア12千台、同 +39.5%

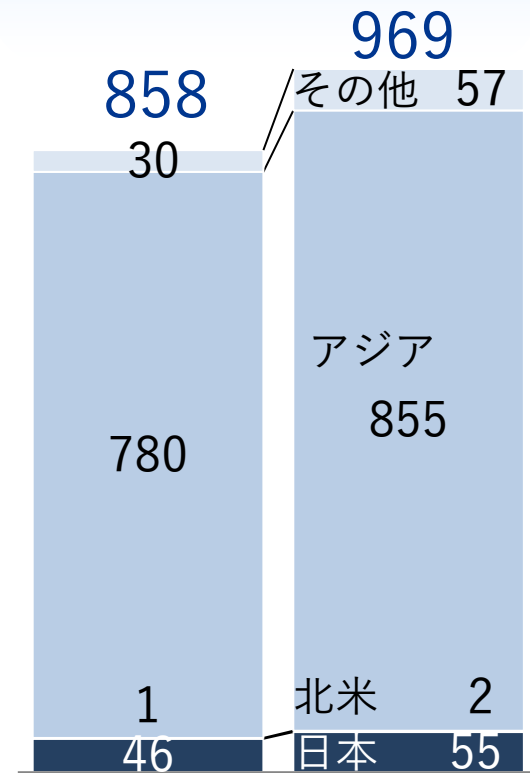
< 中南米 >

・ 中南米全体販売台数62千台、同 +12.8%
 ・ 内、メキシコ 21千台、同 +40.6%



《生産実績》

+111千台 (+13.0%)
(千台)

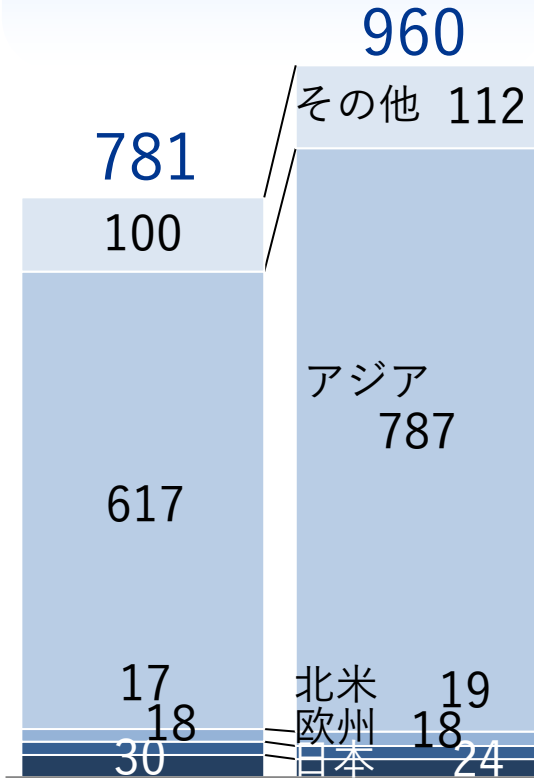


前年同期
'21/4-9

当第2四半期
'22/4-9

《販売実績》

+179千台 (+22.9%)
(千台)



前年同期
'21/4-9

当第2四半期
'22/4-9

● 当期の世界販売

・世界販売	960千台	(前年同期比 + 22.9%)
・アジア	787千台	(〃 + 27.5%)
日本	24千台	(〃 ▲ 18.5%)
欧州	18千台	(〃 ▲ 0.4%)
北米	19千台	(〃 + 16.7%)
その他	112千台	(〃 + 12.3%)

(アジアの内訳)

インド	350千台	(〃 + 35.7%)
中国	245千台	(〃 + 10.2%)
フィリピン	99千台	(〃 + 37.2%)
パキスタン	20千台	(〃 + 23.6%)
その他	72千台	(〃 + 50.0%)

● ラグジュアリースクーター 新型「バーグマンストリート 125EX」を世界初公開

- ・新型「アドレス125」、新型「アヴェニス125」とあわせて2023年春より順次欧州で発売



新型「バーグマンストリート125EX」

● 2022年をもってMotoGP・EWC参戦終了

- ・サステナビリティの実現に向け経営資源を再配分
- ・自動車産業界が直面している大きな変化への対応を加速
- ・資金と人的資源を新技術の開発に集中的に投入

これまでスズキの二輪レース活動を支え、温かい声援を送っていただいたファンの皆様に感謝申し上げます。



● 近年のレース結果

MotoGP

2020年	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョアン・ミル選手がMotoGP 2020シーズンのライダーチャンピオンを獲得 ・チームスズキエクスターも初のチームチャンピオンを獲得
2022年	<ul style="list-style-type: none"> ・第18戦でアレックス・リンス選手が優勝 ・最終戦でリンス選手が優勝、スズキのMotoGP最後のレースで有終の美を飾る

EWC

2021年	<ul style="list-style-type: none"> ・スズキ、FIM世界耐久選手権で年間チャンピオン獲得 スズキとしては20回目のチャンピオン
2022年	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 FIM世界耐久選手権 第1戦「ル・マン24時間」2年連続優勝

● 当期の業績

- ・売上高は688億円と前年同期に比べ、189億円（+37.7%）増加、営業利益は198億円と同76億円（+62.3%）増加
- ・売上高、営業利益とも上期として過去最高



● マイクロプラスチック回収装置を搭載した船外機の生産を開始

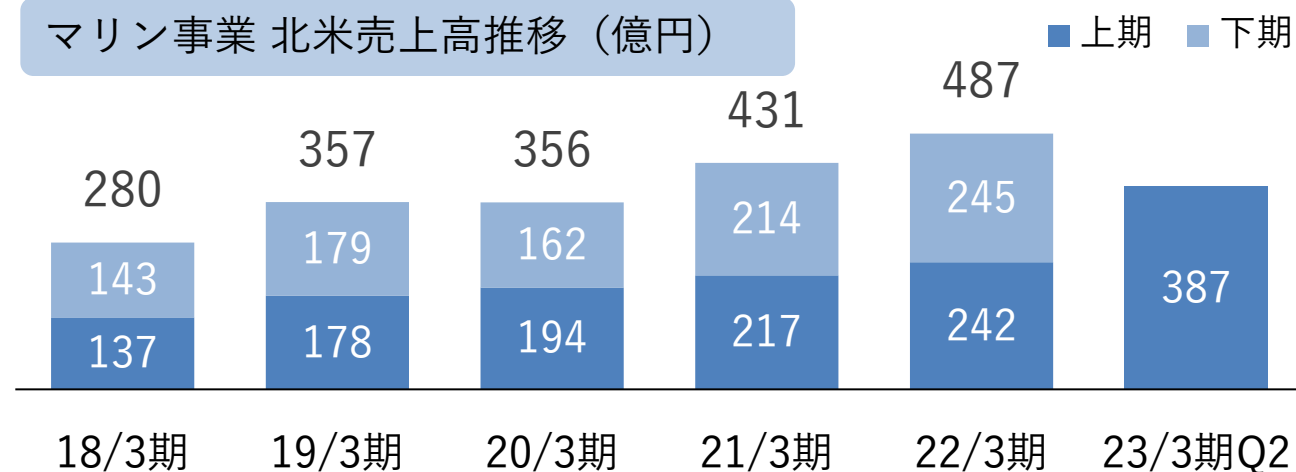
- ・中型船外機5機種に、世界初のマイクロプラスチック回収装置を標準装備し、7月より生産開始
- ・今後、北米、欧州などの主要市場を含めた全世界へ順次出荷予定



● 北米売上高推移

- ・北米では大型日本製機種を受注が引き続き好調
- ・ボートビルダーへの供給と、新艇の在庫不足により発生した既存艇への船外機乗せ換え需要の取り込みの両面で販売が伸長

マリン事業 北米売上高推移（億円）



● 10月27日、船外機の世界累計生産400万台達成

- ・1965年、高塚本社工場で生産開始
- ・現在、湖西工場、タイスズキで生産

- 世界的な景気後退リスクが高まっているとの認識に変わりはないが、上期決算の進捗、および販売台数の見直しや為替円安の状況を反映し上方修正

	(億円)	当期 ('22/4-'23/3)	前期 ('21/4-'22/3)	増 減		補足	前回予想比較	
					増減率		前回予想	増減
連結 業績	売上高	45,000	35,684	+ 9,316	+ 26.1%	2期連続増収	39,000	+ 6,000
	営業利益 (利益率)	2,900 (6.4%)	1,915 (5.4%)	+ 985	+ 51.5%	5期振り増益	1,950 (5.0%)	+ 950
	経常利益 (利益率)	3,200 (7.1%)	2,629 (7.4%)	+ 571	+ 21.7%	3期連続増益	2,200 (5.6%)	+ 1,000
	当期純利益 [※] (利益率)	1,900 (4.2%)	1,603 (4.5%)	+ 297	+ 18.5%	3期連続増益	1,350 (3.5%)	+ 550
世界 販売	四輪車	3,041千台	2,707千台	+ 334千台	+ 12.3%		2,908千台	+ 133千台
	二輪車	1,863千台	1,639千台	+ 224千台	+ 13.7%		1,787千台	+ 76千台
配当	一株当たり 年間配当金	未定	91円	—	—	—	91円	—

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

< 営業利益増減要因 >

(億円)	通期予想
台数増減	+868
売上構成変化等	+1,195
原価低減	+350
為替影響	+850
原材料価格変動	▲1,100
諸経費等の増	▲700
研究開発費の増	▲393
減価償却費の増	▲85
計	+985

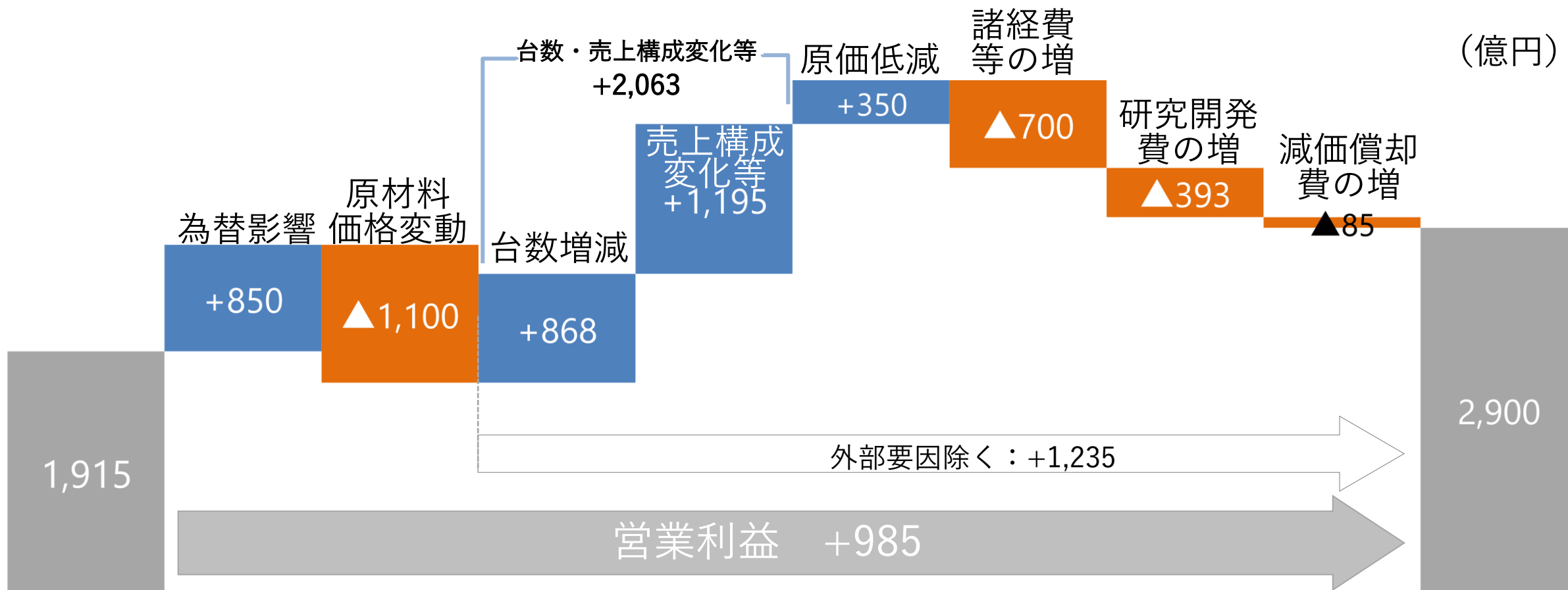
< 設備投資・減価償却費・研究開発費 >

(億円)	通期予想	前期比較	
		前期実績	増減
設備投資	2,900	1,894	+1,006
減価償却費	1,700	1,615	+85
研究開発費	2,000	1,607	+393

< 為替レート >

	通期予想	前期実績	増減	下期予想	営業利益 為替影響 (億円)
インドルピー	1.72円	1.52円	+0.20円	1.72円	+270
米ドル	136円	112円	+24円	138円	+219
ユーロ	138円	131円	+7円	138円	+121
メキシコペソ	6.68円	5.53円	+1.15円	6.70円	+116
オーストラリアドル	93円	83円	+10円	92円	+40
南アフリカランド	8.07円	7.58円	+0.49円	7.90円	+29
ポンド	160円	154円	+6円	158円	+20
インドネシアルピア※	0.91円	0.79円	+0.12円	0.91円	+37
ニュージーランドドル	83円	78円	+5円	82円	+9
パキスタンルピー	0.63円	0.68円	▲0.05円	0.61円	▲39
その他通貨	-	-	-	-	+28
為替影響額 計					+850

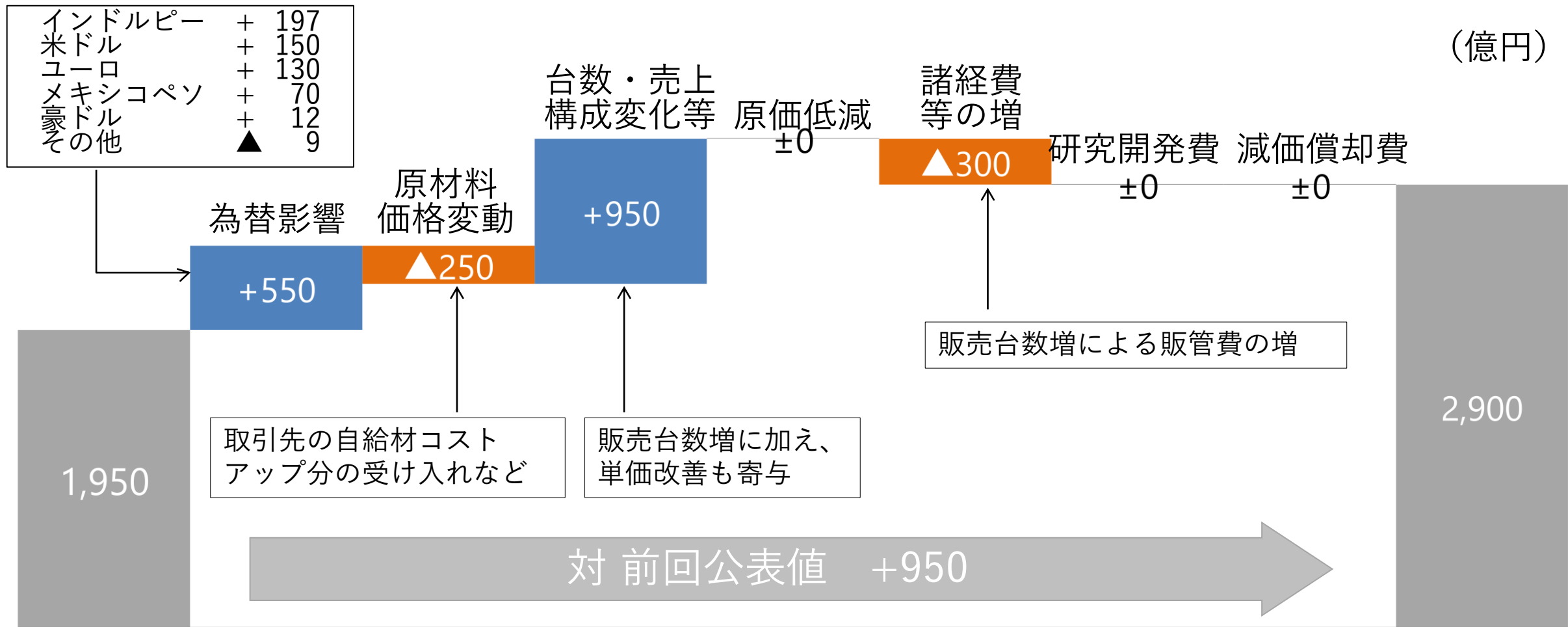
※インドネシアルピアは100ルピア当たりのレート



前年同期
営業利益
'21/4-'22/3

23/3期
通期予想
'22/4-'23/3

注. 従来の売上・構成変化等を台数増減と売上構成変化等に分解。それに伴い、項目名を台数・売上構成変化等へ変更



23/3期 通期予想
前回公表値
'22/4-'23/3

23/3期 通期予想
今回公表値
'22/4-'23/3

注. 台数・売上構成変化等は前回公表値が台数増減と売上構成変化等に分解していない為、合計で記載

(千台)	生産台数				販売台数			
	予想 (23/3期)	前年実績 (22/3期)		前回予想 からの増減	予想 (23/3期)	前年実績 (22/3期)		前回予想 からの増減
		増減				増減		
<四輪車>								
日本	994	840	+154	▲41	648	561	+87	▲15
欧州	141	100	+41	+5	182	225	▲43	▲17
アジア	2,134	1,882	+252	+208	1,930	1,666	+264	+136
その他	0	1	▲1	-	282	254	+28	+30
合計	3,269	2,822	+447	+173	3,041	2,707	+334	+133

インド四輪の通期販売見通しは前年比+21%

<二輪車>								
日本	114	99	+15	▲5	52	53	▲1	▲2
欧州	-	-	-	-	33	28	+5	▲5
北米	3	3	▲0	▲1	33	29	+4	+3
アジア	1,653	1,611	+42	+119	1,537	1,324	+213	+74
その他	91	71	+20	+27	208	205	+3	+7
合計	1,861	1,784	+77	+140	1,863	1,639	+224	+76

2023年3月期 第2四半期決算説明会



GRAND VITARA
A NEW BREED OF SUVs

スズキ株式会社

..... 将来予想に関する注意事項

※このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

※実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。

※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動（主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場）などが含まれます。